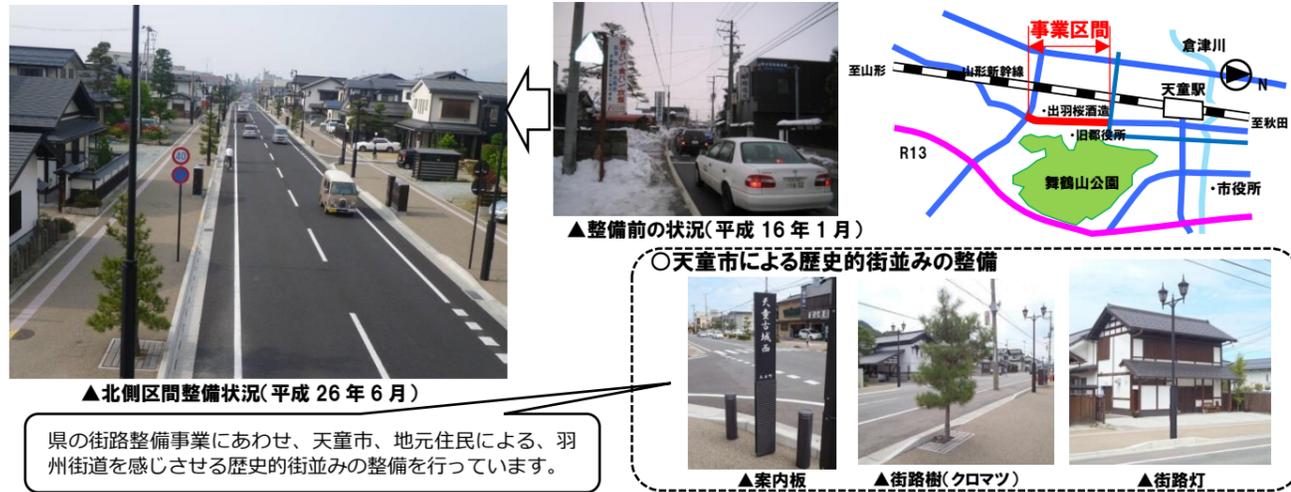


# ～山形県で次世代のレガシーとなる土木構造物を創ろう～

## 歴史的街並みの整備

### ■都市計画街路事業 山形老野森線街路整備事業（天童市一日町地内）



県の街路整備事業にあわせ、天童市、地元住民による、羽州街道を感じさせる歴史的街並みの整備を行っています。

都市計画道路山形老野森線（主要地方道山形天童線）は、羽州街道をルーツとする、歴史ある幹線道路で、現在も、通勤や通学の大動脈として多くの利用があります。

しかし、歩道が無く車道も狭い区間があり、冬季の積雪時など、歩行者が危険にさらされている状況にあります。そのため、両側歩道を設置し、全幅18mの広い道路に整備し、車両の円滑な走行性の確保や、歩行者の安全性確保を図ることを目的とした事業です。

また、この事業に合わせ、天童市や地元の住民と協議しながら、羽州街道であったことを生かした、歴史的街並みを感じられるような街づくりにも取り組んでいます。具体的には、地元の住民が「まちなみ協定」を結び、街路事業で家屋を建て替える際、色彩などのルールを決め、羽州街道にふさわしい街並みを実現させています。さらに、天童市にて、羽州街道にふさわしい、素敵なデザインの案内板や街路灯を整備してもらい、県、市、地元の三者が一体となった街並みづくりに取り組んでいます。

【事業期間 H15～H30 全体事業費:約 31 億,H29 事業費:0.5 億円】

## 高速道路へのアクセス道路の整備

### ■主要地方道米沢高畠線道路整備事業



主要地方道米沢高畠線は、米沢市と高畠町を結ぶ総延長 17.4km の幹線道路であり、米沢市街地から東北中央自動車道へアクセスする重要な路線です。

山形県では、東北中央自動車道へのアクセス性の向上を図るため、平成 23 年度より国道 13 号から米沢中央 IC 間の 4 車線化整備を進めています。

【事業期間:H23～H30,全体事業費:約 16 億円,H29 事業費:1 億円】

## 人に優しい道路空間の整備

### ■主要地方道上山蔵王線交通安全道路事業



主要地方道上山蔵王公園線は、上山市と山形市蔵王温泉を結ぶ総延長 11.1km の幹線道路であるとともに、重要な観光道路でもあります。

蔵王温泉街を通る区間は、温泉街のメインストリートであるとともに、山形市立蔵王第三小学校の通学路となっていますが、歩道がなく、特に積雪期においては歩行者と車が錯綜して危険な状況であります。

このため、山形県では、歩道及び無散水消雪施設を整備し安全で快適な歩行空間を確保するとともに、良好な景観の形成や観光振興の観点から無電柱化を進めています。

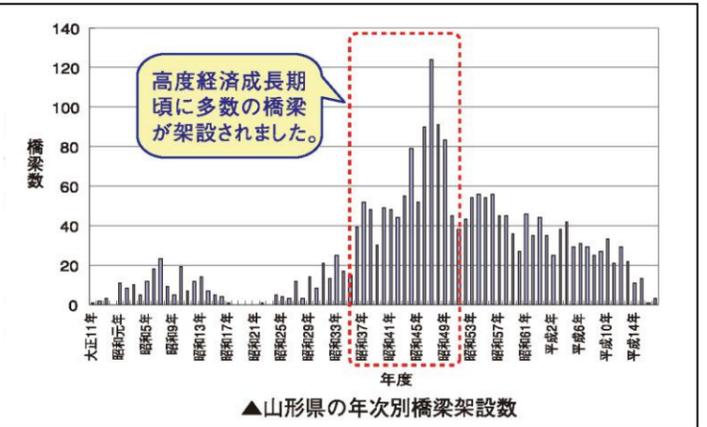
【事業期間:H29～H38,全体事業費:約 1.1 億円,H29 事業費:0.4 億円】

## 道路の計画的な修繕による安全の確保

### ■道路施設長寿命化対策事業

山形県が管理する約 2,400 の橋梁の多くは、高度経済成長期に整備しており、橋梁の耐用年数は、50～60 年であるため、平成 40 年頃に橋梁更新のピークを迎えます。

効果的な維持管理を行うため、これまでの損傷が進んだり、壊れてから手当てする「対症療法型」の管理から損傷を予測して計画的に手当てする「予防保全型」に転換し、道路施設の長寿命化を推進しています。



【落合橋】（庄内町）

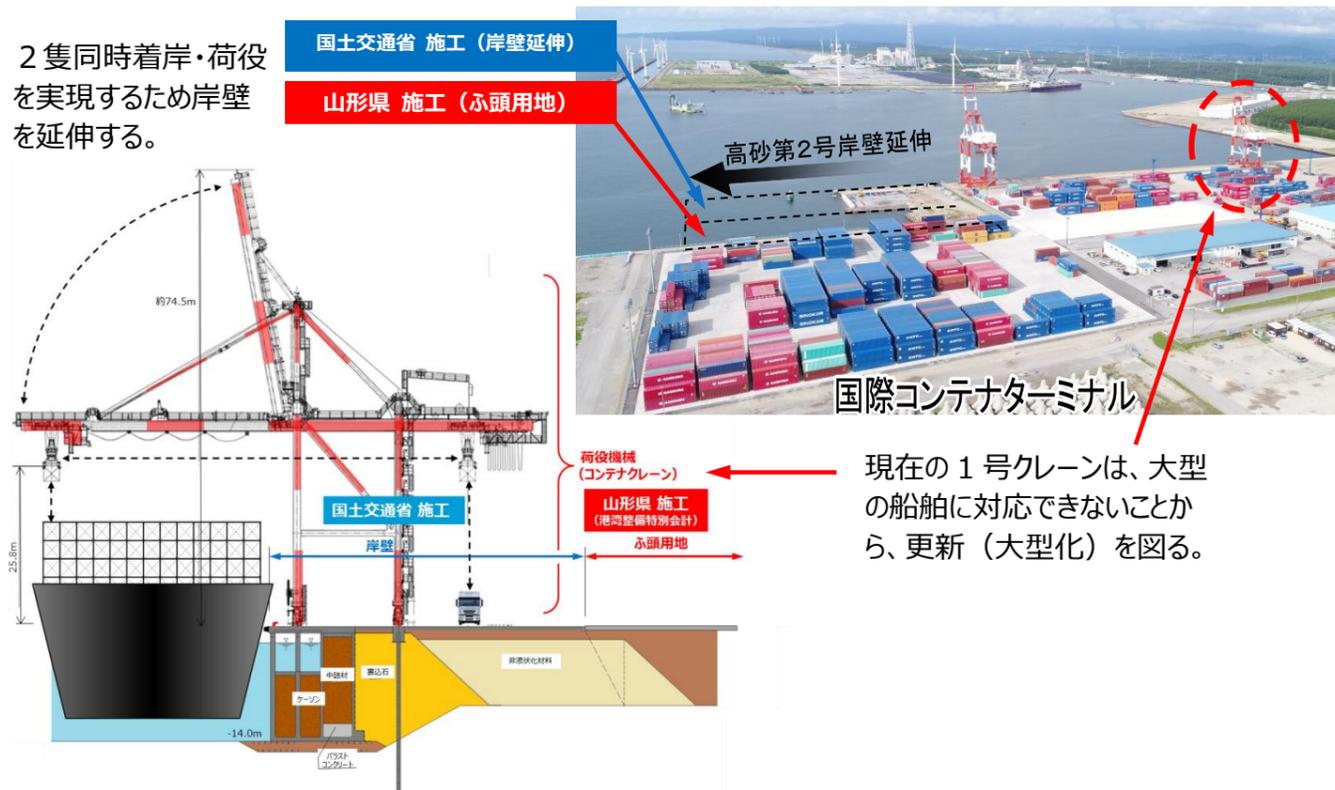
【昭和 52 年完成 40 歳】  
主要地方道 余目加茂線

【 H29 事業費：約 22 億円,約 70 橋実施 】

## コンテナ貨物の増加と観光の拡大に対応した酒田港

### ■ 1号コンテナクレーン更新事業、高砂2号岸壁延伸関連整備事業 等

2隻同時着岸・荷役を実現するため岸壁を延伸する。



現在の1号クレーンは、大型の船舶に対応できないことから、更新（大型化）を図る。

【事業期間 H27～H31 全体事業費:約 32 億円,H29 事業費: 9.5 億円】

## 局地的な集中豪雨に対する緊急的な治水対策

### ■ 吉野川 河川災害復旧等関連緊急事業



▲河川災害復旧等関連緊急事業による整備後の状況(平成 29 年 3 月)



▲整備前の状況(平成 28 年 7 月)



▲市街地の浸水被害状況(平成 25 年 7 月)



級河川 吉野川

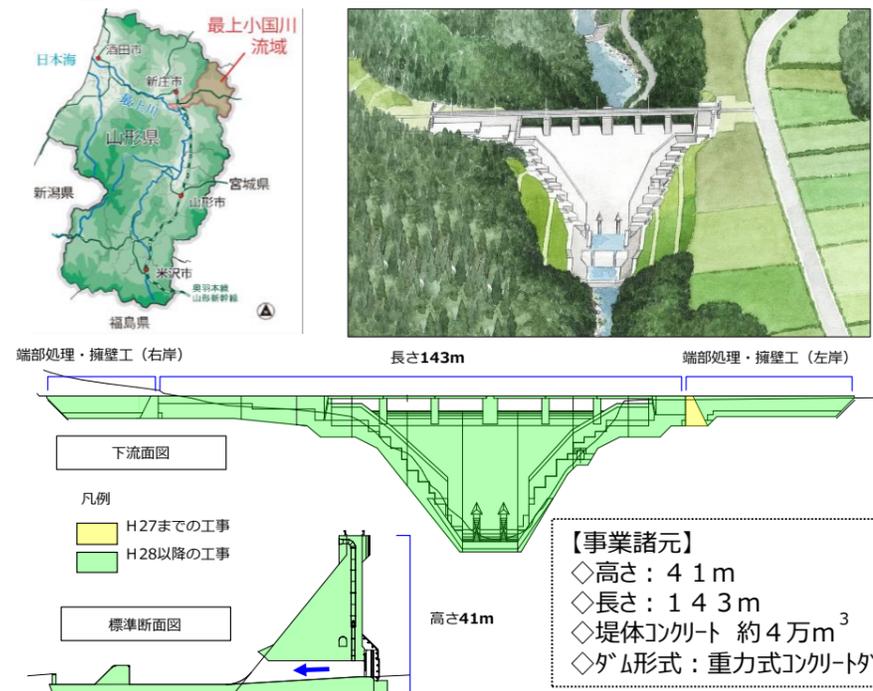
県南部にある南陽市では、平成 25 年 7 月の梅雨前線豪雨、平成 26 年 7 月の梅雨前線豪雨により戦後最大級の洪水が 2 年連続で発生しました。最上川水系吉野川の赤湯水位観測所では、観測史上最高の水位を記録し、平成 26 年 7 月の梅雨前線豪雨による南陽市の被害は、全壊 1 棟、半壊 6 棟、床上浸水 174 棟、床下浸水 307 棟と甚大なものでした。

特に被害の大きかった吉野川では、護岸等の施設災害が甚大な上流の金山地区にて災害復旧による施設の原形復旧に加え河積の拡大を行う災害関連事業（改良復旧）を実施、下流の赤湯・宮内地区においても河川災害復旧等関連緊急事業にて緊急的かつ集中的な河道掘削、築堤、橋梁架替等を実施することで、上下流の流下能力バランスを取った一体的な洪水被害軽減対策を進めています。

【事業期間 H25～H29 全体事業費:約 81 億円,H29 事業費:22.6 億円】

## ダムの整備により洪水から人命・財産を守る

### ■ 最上小国川流水型ダム整備



【事業諸元】  
 ◇高さ：41m  
 ◇長さ：143m  
 ◇堤体コンクリート 約4万m<sup>3</sup>  
 ◇ダム形式：重力式コンクリートダム

最上小国川の沿川一体は、昭和 30～40 年代にかけてたびたび大きな洪水被害が発生しています。特に昭和 49 年 8 月の集中豪雨による洪水被害は、床上浸水 61 戸、床下浸水 278 戸におよぶ甚大な被害をもたらしました。これらの災害を契機に最上小国川では下流の舟形町より多くの箇所では河道改修が実施されています。

しかし、最上町赤倉地内では、温泉旅館等が川沿いに立ち並んでいるために、河道の拡幅や河床の掘削が制限され、抜本的な河道改修に至っていなかったことから、近年においても洪水被害が発生しています。（平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨でも浸水被害が発生）

このような状況から、赤倉地区住民の人命と財産を守るために早急な治水対策を行っています。

【事業期間 H27～H31 全体事業費:約 84 億円,H29 事業費:14.2 億円】

## やまがたの誇れる景観と魅力を発信し地域の活性化と交流人口を拡大

### ■ やまがたの誇れる景観魅力発信事業

車で容易に訪れることができ、山形ならではの美しい景観を体感できる視点場～「やまがた景観物語」おすすめビューポイント～を 53 箇所設定し、現地を訪れてこそ得られる景観に関わる歴史や物語などの情報をあわせて発信することで、交流人口の拡大と地域の振興を図ります。

平成 29 年度は、これまで選んだ 53 箇所のビューポイントについて、情報発信の充実と魅力の向上に取り組んでいます。

- 情報発信の充実 ～より多くの人に知っていただくために～
  - ホームページ・フェイスブックによる情報発信
  - ガイドブック及びポスターの作成
- ビューポイントの魅力向上 ～より多くの人に訪れていただくために～
  - 道路案内標識の設置（道路保全事業等）  
ビューポイント周辺道路にオリジナルの案内標識を設置しています。
  - 景観の保全活動を促進するシンポジウムの開催  
ビューポイントを含め、県民が主体となった景観保全・活用活動を促進するため、市町村と連携してシンポジウムを開催します。



標識設置例（山寺芭蕉記念館）

市町村による古民家改修等（上山市橋下）



【H29 事業費:1,311 千円】